

あの戦争を語り継ぐ
平和宣言都市30周年
記念連載①

柳沢清子さん（大松地区在住）

東京大空襲の記憶

去年は戦後70年ということ
で、そのテレビ番組を見てい
たら、ずっと忘れていた当時
の記憶がよみがえり心を病ん
でしまいました。あまりにも
すごい有様で、涙が出てしま
いました。

私は当時本所吾妻橋に住ん
でいて、空襲に遭いました。

防空壕を掘って備えていまし
たが、役に立ちませんでした。
砂袋と、竹ぼうきの先端にわ
らを丸めてそれを水にぬらし

て消火する訓練をしていまし
たが、無意味でした。

3月9日の空襲では、ア
メリカは焼夷弾で下町を焼け
野原にしようと空襲しました。
周りが燃えていて、これから
自宅が燃えるというときに、

父は焼けた跡の方に行こうと
言って、押上と業平橋あひらひの間の
あたりに行き、生き残りまし
た。赤ん坊を背負った人の背
中に火が燃え移ったりして、
熱いからみんな隅田川に飛び
込み、川は死体だらけになり
ました。こんな地獄はありま
せんでした。

夜が明けると地面は全面焼
け焦がれていて、骨だけのもの、
黒焦げのもの、蒸し焼きのも
のと死体がごろごろ転がって

いました。子どもを腕の中に
かばったままくくなったお母
さんもいました。10万人も亡
くなったのです。死体をまと
めてトラックに放り投げてい
ました。米軍の捕虜も片づけ
を手伝っていました。

空襲の怖さは、一夜にして
何もなくなることです。日本
はほかみたいでした。全く戦
争を甘く見ていたのです。戦
争は人間がしてはいけないこ
とでした。

◇東京大空襲：昭和20年3
月10日未明に連合軍が行った
無差別爆撃。東京の下町が狙
われ、推定死者は10万人とさ
れる。

問 企画政策課男女共同参画
室 内線 33354